

## 若いきみたちに（垂起良のつぶやき）

### 「平和な国」づくりの世代伝承

だれもが「七十古希」（人生七十古来まれなり・杜甫）まで生きられる史上まれな長寿の時代、長寿を得た人びとが70年余り、この国の「戦後平和」を史上まれな長さに保持してきたのです。「戦禍と戦後復興」を体験した人びとの胸中に刻まれた外には見せないつらい記憶の存在。その一人ひとりのつらい記憶は、できることなら「平和」に生きるきみたちに知らせたくない記憶として胸の奥に留めてきたのでした。

黙したまま去世してゆく先人に、兵役もなく「平和」な時代の記憶しか持たない君たちは、深く感謝しなければ。先の世界大戦（犠牲者6000万人+）での敗戦国の日本（犠牲者310万人）には、人類の悲願として、国際的紛争の解決に武力を用いないという国際的偏務としての「恒久平和」の国づくりが託されているのです。その実証であり誇るべき事例がきみたちの人生なのです。

.....

ところが今、憲法改正をめざして、周辺国の軍備を主な理由にして、自分たちの胸中の「平和」を守るために強力な軍事力を保持しようとする政治家（50・60代の男性）が現れています。そして後人であるきみたちに軍事力の必要性を説くでしょう（「憲法九条に自衛隊を付記」など）。戦間期・戦前期・戦中期・戦後期とたどった「昭和史」から学べない人たちに人生を託してはいけません。本当の「平和100年」の保持が「日本の夢」なのですから。

（\*自衛と軍備は別項で）

どうするのか。

.....

「平和100年・100年人生」という「日本の夢」を実現する主役として本稿が取り上げている「平和団塊」（戦後生まれ。1946昭和21年～1950昭和25年、634万人）の人びと、「七十古希」に達した先人から直接に胸から胸に世代伝承を受けて、「平和」を保持する内なる「心火」を引き継ぐこと。そして海外に出かけた折には、世紀をまたいで輝く「日本の夢」を、世界の隅々の友人に伝えること。

若いきみたちが憲法を議論するということはこういうことなのです。この項がひとりでも多くの若い人に届いて、賛同が得られることを願って。

2022・1・10 成人の日 記